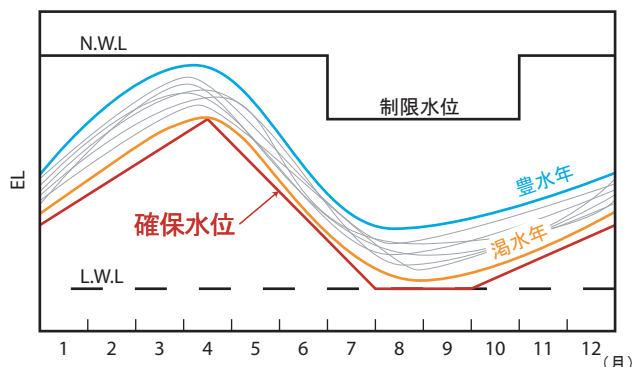


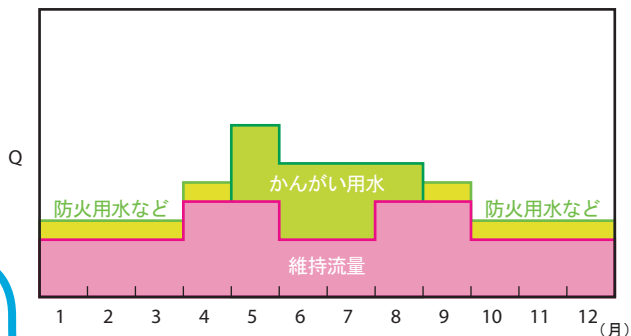
現在の貯水池運用

流況別（年別）のダム運用図 ※既得・新規都市用水を除く

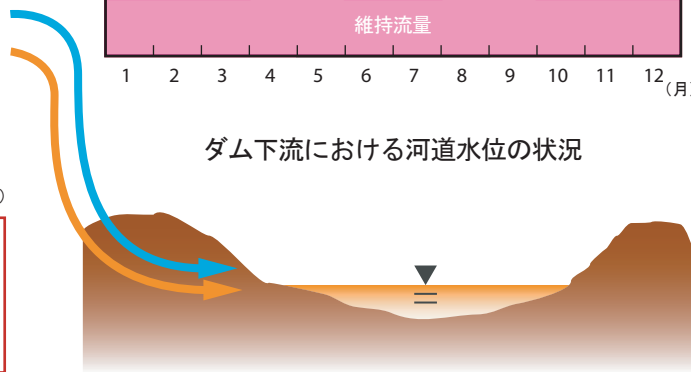


現在の運用では、確保流量のしほりにより、
豊水年でも渇水年でも、ダム下流河道の平常
時水位はほとんど変わらない

確保流量



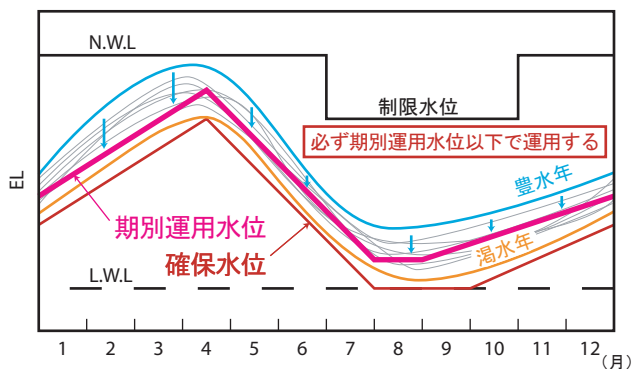
ダム下流における河道水位の状況



現況の利水状況に合わせて確保水位を見直し
期別運用水位を設定する

I N A が提案する貯水池運用

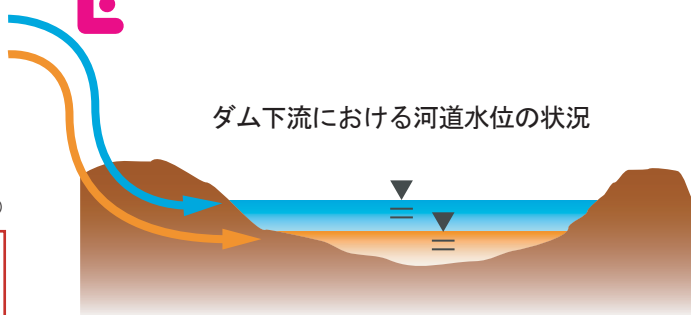
流況別（年別）の運用図 ※既得・新規都市用水を除く



期別運用水位と各年の流況により、ダム下流
河道の平常時水位が変動する
※必ず確保流量は満足する

必ず期別運用水位以下で運用する

ダム下流における河道水位の状況



期別運用水位での運用によるメリット

- 確保流量を満足しつつ、かつ、通常のダム運用より自然流況に近い運用ができる
- 豊水年には水量感を出すことができる
- 流量（水位）の変動により、多様な魚類相などの生態系の生息・生育が期待できる
- 流量増により水環境（水温や水質）の改善が期待できる